

ずいそう

スポーツにおける若者の台頭に思う

羽山 高義



プロゴルファーになったばかりの宮里藍が、先日、19才の誕生日を挟んで、女子プロ史上最年少で2週連続優勝を果たした。今期3勝は、過去4年間連続賞金王の不動祐理に並び、プロ1年目にして早くもトップを脅かす勢いである。不動祐理もまだ若く27才であるが、昨年度ツアー10勝を果たし年間最多勝利数の新記録を樹立している。

同じ週に開催された全米オープンゴルフ、丸山茂樹は初日、二日目と首位を維持したが、三日目には4位に後退し、最終日も4位タイに終わった。優勝したのは、南アのレティーフ・グーセンである。ファンの期待には応えられなかったが、丸山の善戦を讃えたい。なにしろ、タイガー・ウッズ、アーニー・エルス、フィル・ミケルソンなどビッグネームを目指すメジャー大会である。

丸山は現在35才だが、大学卒業後23才でツアー優勝しゴルフファンに強い印象を与えた。彼以降、田中秀道、片山晋呉などの若手が続々と現れ、世代交代が進んだ。

若手の台頭が目立つのは、何もゴルフばかりではない。2006年ワールドカップ・ドイツ大会に向け、再びサッカー熱が燃え上がろうとしている。現在、海外で十数人がプレーしているが、このうち中田英寿、小野伸二などは海外チームでも司令塔をつとめる。中田27才、小野24才である。

サッカーは、年齢制限のないフル代表の他に、年齢別にU23、U19、U17の国際大会があり、組織的に人材を育成している。オリンピックの中心となるU23代表のほとんどが、すでにJリーグの主力選手でもあるが、本年のアテネ大会をバネにして大きく飛躍するものと思われる。個人的には、田中達也のセンスのよさに期待している。

その次の世代、筑波大学に進学した19才の平山相太、15才でJリーグにデビューした16才の森本貴幸など、更に若い人たちの成長も楽しみである。平山は、U23に招集されオリンピック予選で活躍した。森本は、15歳10ヶ月でJリーグ公式戦の最年少出場を、15歳11ヶ月で最年少得点を記録している。

こんなことを書いていたら、女子バレーボールのオ

リンピック代表選出のニュースが入ってきた。主将・吉原知子、セッター・辻知恵は、ともに34才で史上最年長であるが、木村沙織が史上最年少の17才で代表選手に選ばれている。

こうしてみると、スポーツでの若手の活躍は枚挙のいとまがない。しかし、競技によっては選手生命が短く、20才前後でピークを迎えるものもある。例えば、水泳や体操などは若くなければ勝てないイメージすらある。大相撲なども同様で、貴乃花は次々に最年少記録を塗り替え22才で横綱になったが、30才で引退している。現役横綱の朝青龍も、まだ23才である。大相撲は、30代で年寄になる世界である。

以上、スポーツにおける若者の活躍を述べてきた。ここに紹介した若手選手たちは、大概の場合、小さいときから英才教育を受け、その分野で生き残ってきた勝ち組である。その陰には挫折した多くの若者がいるはずであるし、もともと別の次元でスポーツを行ってきた人たちも多い。しかしながら、スポーツを通じて養ってきた体力、精神力はもとより、規律性、責任性、積極性、協調性などの資質は、今後の人生に大いに役立つものと思慮される。

ところで、一般社会における若者の活躍はどうか。全般的にみて明るい状況とは思われない。社会が成熟期を迎えたためなのか、景気が低迷しているためなのか、若者の活躍の場が少なくなっているように思われる。また、価値観が変わり定職に就かない人たちも増えている。

NHKの「プロジェクトX」は、高度成長期の技術者たちの一途さを振り返っている。いつも感動を与えてくれるが、もはや時代が違うのだと感じたりする。建設産業も例外ではない。今の若者は…、などと批判をしても仕方のないことである。

今日でも、拡大指向の産業では、経営陣をはじめ皆驚くほど若い。建設産業の活力を復活するために若手の台頭を望みたいし、台頭できるような環境を創出していくことが、この産業でお世話になったわれわれの使命であろう。